

日本儒学 - 生涯と哲学 -

十人の「**代表的日本人**」に学ぶ、良心と文化の根源

この日本儒学講座は、朱子学と陽明学が、盛んに学ばれ、やがて日本独自の哲学として武士、庶民を問わず普及した江戸時代を中心に、今の私たちにも通じる文化、習慣となっていく日本儒学の真髄を、陽明学の学系と関わりの深い人物を中心に代表的な十名の日本人の生涯と哲学から学ぶ講座です。



熊沢蕃山

山田方谷

西郷隆盛

渋沢栄一

吉田松陰

中江藤樹

◎ 成生書院の学び方は、江戸幕末スタイル

江戸時代の日本人の学力は、実は世界を驚かせる最高の水準にあったと言われています。高い識字率と計算能力、女性と子供の活躍に豊かな文化や超絶技巧などに表れていますが、当時の学問は、講師の講義を受動的に聴くだけでなく、自己実現のために学びを活かす能動的な学び方が存在していました。それが講学、会読です。今なら探求学習、ハートストーミングと呼ぶのでしょうか。成生書院の講座では、古くて新しい学びを行います。

【日本と儒学】

今から 2,500 年前の古代中国で誕生した儒学は、孔子の『論語』をはじめ『孟子』『大学』『中庸』の四書、朱子学や陽明学として広く知られ学ばれるだけでなく、日本の文化と日本人の暮らしや生き方、考え方にも長く親しまれ、平和と社会の豊かな発展に大きな影響を与えてきました。

日本と儒学の関わりは古く、『古事記』と『日本書紀』の伝説によると、今から約 1,600 年前、4～5 世紀ごろに**王仁博士**が、日本に漢字（千字文）と『論語』を伝えたと記述されています。日本史上、最初の儒学者である王仁博士から学び即位した**仁徳天皇**は、民の生命と生活を大切に**仁政**によって日本を戦乱から平和で豊かな社会に導きました。仁徳天皇の即位のお祝いに王仁博士が詠んだ和歌「難波津に咲くやこの花冬ごもり 今は春べと咲くやこの花」は、競技かるた百人一首大会の序歌として、今でも最も有名な和歌の一首として日本全国で親しまれています。その後 7 世紀、飛鳥時代になると**聖徳太子**による日本初の憲法「**十七条憲法**」（604 年）の第一条は「一日、以和爲貴」（第一条に曰く、**和を以て貴しと爲す**）という有名な一節から始まりますが、これは、『論語』学而篇の一節から影響を受けていることが知られています。さらに応仁の乱から安土桃山時代にかけて続いた戦乱戦国の時代を終わらせ 260 年続く**天下泰平**の世に導いた**徳川家康**は、朱子学を奨励し武断政治から文治政治に国家体制を改革する基礎教養となる学問として日本全国に普及しました。この頃、陽明学が、武士、庶民を問わず盛んに学ばれ普及すると同時に宋明新儒学（**朱子学と陽明学**）が日本に伝来する時代背景や日本土着の文化との融合を経て**日本儒学**といえる独自の哲学思想が創られていきます。その影響は、幕末維新の**文明開化**から戦後復興の**高度経済成長**まで日本社会の礎として人々の生き方や考え方、また文化や習慣を支える哲学と社会構造となっていることが欧米を中心に多くの学術論文からも証明されています。

大きな志 稲盛哲学はどのようにして生まれたのか

私たち経営者にとって将来の予測が困難な今日の世界情勢の中で、如何に企業を繁栄させ存続させるかは大きな命題となります。企業経営には収益性や事業性、独自性などよりもさらに優先して社会性が伴わないと永続的に発展することは困難だと言われています。そのためには経営者が自ら日々心を高め続け、人間観を深め、自己を確立し、大きな志を立てることが必要だと思います。

今回の講座は「親子で学び合う」ことができます。事業承継はとても難しいことですが、親子が共通した思想、哲学を持つことでより力強くバトンタッチゾーンを走ることができると思っています。稲盛哲学はどのようにして生まれたのか、またどのように発展させていったのかを知ることができるかもしれません。

株式会社テイコク製薬社 代表取締役 畠山 兼一郎

◆ 成生書院の講座は幕末スタイルで行います。

「庶民から天才が生まれる」**絶学**となった世界最高の学び方



「人間である根源」を学んだ時代の学問

成生書院の講座では、幕末の塾で行われた侍や志士たちの学び方を現代風に再現したスタイルで学んでいただきます。江戸時代の日本人の学力と学習方法は、世界的にも優れていたことは、武士、地主といったリーダーたちの人格と判断力に止まらず、当時の庶民の識字率や計算能力の高さ、都市の大きさと治安の良さ、美しい文化や芸術、職人の超絶技巧にも学びの成果が表れ、開国後には世界を驚かせました。更に近年では、この学びが、明治以降の文明開化と戦後の高度経済成長の原動力になっていたことが欧米を中心に海外の研究発表で明らかになっています。

特徴は、学ぶ本人が主人公であること。先生が一方的に教科書から技術を教える100点満点を目指すのではなく、受講生が一人ひとりテーマをもって良心と志を実現していく学び方です。松下村塾の吉田松陰は「**学は人たる所以を学ぶなり**」（学問とは、人間である本質を学ぶことです）と言いました。学校の勉強が嫌いだった方にも「学ぶことは、楽しい。」を体験して欲しいと思います。

◆ 受講のご感想 【 皆様の感想文を、最後に掲載しております。ぜひご一読ください。】

それが 私の「志」となりました。

畠山 兼一郎 様（株式会社テイコク製薬社 代表取締役）

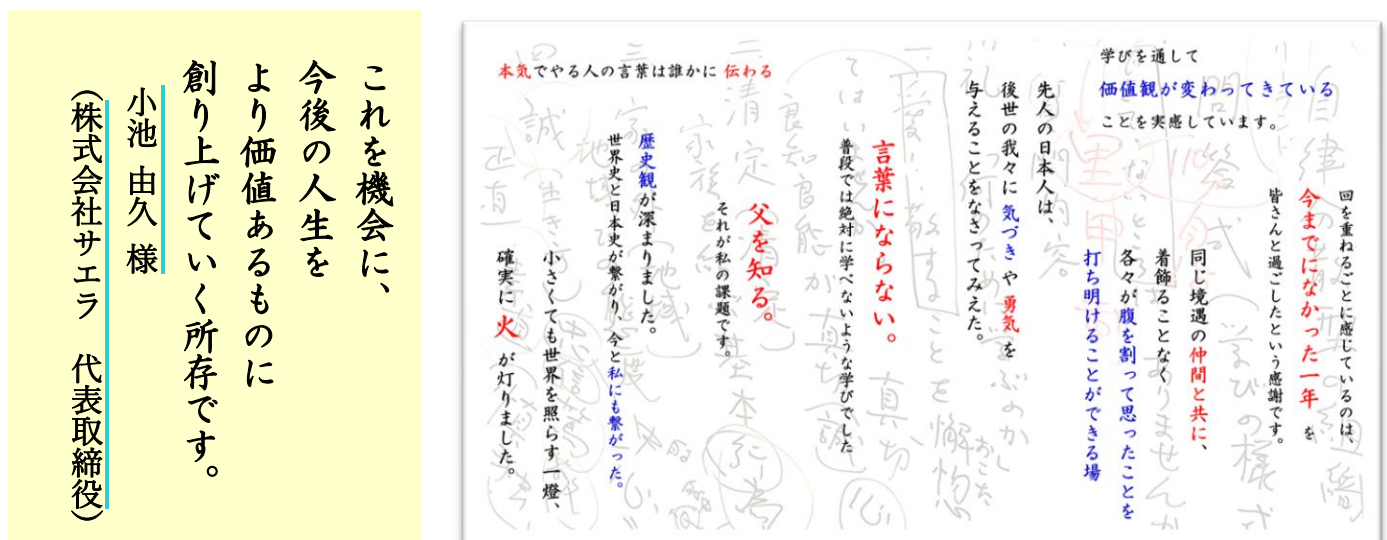
従業員の真の幸福が見えました。

息子に一番繫げたい事が在りました。

宮田 博文 様（株式会社宮田運輸 代表取締役会長）

かけがえのない学びの場 - 湧き立ってくるチカラ -

内畑谷 剛 様（関空運輸株式会社 代表取締役）



従業員の物心両面の幸福を追求することと、世のため人のため人類社会の進歩発展を目指すことを矛盾なく追求してこられた先人の道を一步一步力強く歩みたいと決意を新たにしました。

原田 智樹 様（株式会社アーストレック 代表取締役）

Wake up！ここがわかったら、目覚めるときです。

石坂 拓司 様（庭のソムリエ 株式会社季節の詩 代表取締役社長）

私の人生の上で貴重な財産となりました。

仲内 悦治 様（株式会社ナビック 取締役会長）

日本儒学講座 — 生涯 と 哲学 —

【日程】 毎月 1 回ペース (2 クラス) で行います。

火曜日クラス 14:00～17:00

木曜日クラス 14:00～17:00

会場：大阪ベイトワーオフィス5階 大阪府大阪市港区弁天 1 丁目 2-1

◎ 弁天町駅 (JR 大阪環状線 / 地下鉄 中央線) 徒歩 2 分

※ 会場は都合により変更になる場合がございます。

補講：① 会場から オンライン中継 (Zoom) を行います。

② 欠席の場合、講義のアーカイブ配信を行います。

【お申込み】

QRコード



[2025-2026 年] (1 回: 3 時間 全 11 話 本編 10 回 + 1)

	火曜日	木曜日	
	— 継承者 —	— 経営者 —	
第1回 哲学を学ぶ	5月13日 (火)	15日 (木)	
第2回 中江藤樹	6月17日 (火)	19日 (木)	
第3回 熊沢蕃山	<u>7月17日 (木)</u>	17日 (木)	合同開催
第4回 保科正之	9月16日 (火)	18日 (木)	
第5回 三輪執斎	10月14日 (火)	16日 (木)	
第6回 <u>学 談</u>	<u>11月20日 (木)</u>	20日 (木)	1・2期合同開催
第7回 佐藤一斎	12月 9日 (火)	11日 (木)	
第8回 二宮尊徳	1月13日 (火)	15日 (木)	
第9回 山田方谷	2月10日 (火)	12日 (木)	
第10回 吉田松陰	3月10日 (火)	12日 (木)	
第11回 西郷隆盛	4月14日 (木)	16日 (木)	
第12回 渋沢栄一	<u>5月14日 (木)</u>	14日 (木)	合同開催 卒業式

【学費】 297,000 円 / 1 名 (テキスト代・修了証書発行手数料・税込)

【お申込み方法】

① グーグルフォーム: <https://forms.gle/nkkBHdEjeWVwoJ9V6>

② E メール送信: siseituuten20160208@gmail.com

◆ **スケジュール** 成生書院の講座は、幕末スタイル 3 部構成で行います。

(1) 講学 慎独と対話

0:00 講学「私の課題 印象的な出来事 今やりたい事 志を立てる」

(2) 講義 人物を聴く

0:30 講義「日本儒学 ー生涯篇ー」 休憩 (10 分)

1:20 講義「日本儒学 ー哲学篇ー」

2:00 質疑応答 休憩 (10 分)

(3) 体認の学 良知の和合 (ハートストーミング)

2:30 体認の学 自由討論「今、ここにある気持ち」

2:50 本日の学び

3:00 終了

◆ 講師紹介

難波 征男 (なんば ゆきお)

1945年生まれ 岡山県倉敷市出身

宋明儒学(朱子学・陽明学)研究者。書院教育研究者。

福岡女学院大学名誉教授。一般財団法人成生書院代表理事。

九州大学大学院で、岡田武彦先生、荒木見悟先生の指導で体認の学を

重んじる中国哲学を学びました。現在は、東アジア前近代の学びと

近代学校の学びを和合した「新しい学び」と現代哲学としての

「東洋のリベラルアーツ」を志向しています。



◆九州大学中国哲学の学系

九州大学

佐藤一斎 ➡ 楠本端山・碩水 ➡ 楠本正継 ➡ 岡田武彦・荒木見悟 ➡ 難波征男

- 国際儒家生態連盟 主席・杜維明博士 (Harvard大学・北京大教授) にて「崇物論」を発表
- 京都フォーラム 日本・東京 如水会館にて「道德経済合一説の継承 (山田方谷、三島中洲、渋沢栄一)」を発表
- 陽明学サミット 中国・北京ー紹興にて「A I と共に進化する人間像」
- 国際書院学会 ドイツ・ベルリン自由大学にて「郷村社会建設」
- 李退溪国際学会 日本・福岡国際会議場にて基調報告「自省録」

- 『黄宗羲と山田方谷の養気観』
- 『王陽明全集』年譜 (共著、明德出版社)
- 『自省録』 (平凡社・東洋文庫)

【受講のご感想】

■ 畠山 兼一郎 様（株式会社テイコク製薬社 代表取締役）

世界最高位の陽明学者である難波征男先生とご子息の浩気さんから、
1年間息子と一緒に親子で学べたこと、心より感謝申し上げます。

今の心境を申し上げますと、絶対的な心の安寧と平静を経て、
さてこれからどう生きるかという希望が全身に充満している感があります。
全身の細胞が入れ替わって、齢64歳にしてフレッシュマンです。

経営者に「志」がなければ会社は成り立たず、永続もしないと思います。

当講座は人間の本質を知るに至り、自然な感覚で人生の目的を示唆してくれます。
その目的は比較するものがないほどに大きく、純粋で美しいものだと知りました。
そしてそれが私の「志」となりました。

まともに学問をしてこなかった私が初めて体系的に、
しかも進化し続ける難波学問を学ばせていただいていることは有難いことです。
2年目の「大学」がとても楽しみです。



■ 宮田 博文 様（株式会社宮田運輸 代表取締役会長）

難波征男先生とご子息の浩気さんの魂のご講義は、
私達親子にとってかけがえのない時になりました。

なぜ人は生きるのか
人とは何か

そして、私達は、なぜ会社を経営するのかと言う本質に向き合う機会を頂きました。
先人の志に触れ、哲学に感化されました。

命懸けでより良い国を求め続けられる。
自他一如の世界が恒久平和の構築になる。
自らの経営に問いを立て 気づきを頂きました。

経営の目的は人を創る事であるとその為にも経営者が利他の心を根幹に
全ての人の良心を信じて己を高め続ける事の大事さを感じさせて頂きました。

従業員の真の幸福が見えました。

息子に一番繋げたい事が在りました。



■ 畠山 進之介 様（株式会社イフミックウェルネス 代表取締役社長）

約1年に渡り、学びの機会をいただき誠にありがとうございました。

この講座は、同じ年代で同じ境遇の仲間と共に、着飾ることなく各々が腹を割って思ったことを打ち明けることができる場になっており、私にとってとても有意義な時間でした。毎回座学で学んだことを踏まえて皆でディスカッションを行います。自分とは違う発想や着眼点を持たれている方の意見を通じて、新たな気づきを得ることもできました。

何のために働くのか、仕事とは何か、

会社は、社会にとって世の中にとってどういう意義があるのか、

事業性、社会性、公共性がないと永続的に発展することはできない。

世のため人のために公益を追求し続けなければいけないと10人の偉人から学ばせていただきました。これからも自分の心を高め続けていきたいと思います。

■ 宮田 健 様（株式会社宮田運輸）

難波征男先生、浩気さん1年間ありがとうございました！

素晴らしい先達の方々に触れることができました。

古典を読み、実践をされた人生を丁寧に解説していただき感謝しかありません。

講話の構成も楽しく受けることができました。

最初に自分の感じていることや課題を書き出しますが、

不思議とその講話の中で解決のヒントが見つかります。

胸にしまうのではなく、皆で話し合うことも大切だと感じることもできました。

致良知、至誠、徳

沢山の気づきがありました。特別な人が持っているのではなく、

誰にも、また自分にもあるんだということに勇気づけられます。

思いっきり発揮できるように自己修養しながら過ごしていきます。

今年の大学も楽しみです。ありがとうございました。

■ 内畑谷 剛 様（関空運輸株式会社 代表取締役）

「何をやるか」より「誰がやるか」、「何を言うか」より「誰が言うか」

幾らやり方を学び、知識を広げても、人間が深まっていなければ何も為らない。

己が誠 が本物になっていなければ、誰にも響かない。

むしろ壁を創り、溝を深めるだけかも知れない。

「人間を深めるとは」そんな自分自身への「問い」を立て、人間の本質を問い続け、
深め続ける他所では得難い、かけがえのない学びの場であった。

10回の学びを通じて、もう一つ感じたことがある。

それは「何を学ぶか」よりも「誰から学ぶか」であり「誰と学ぶか」である。

難波先生と浩気さんが導き、運んで下さったからこそ人間の本質を深めることが出来た。

心から敬愛する先輩と、仲間とだったからこそ誠を響かせ合うことが出来た。

心からの感謝で一杯です。

たくさんの気づきを頂き、内側から湧き立ってくるチカラを与えて頂いた。

その一年の学びを一言でいうなら「誠を生きる」ということ。

その覚悟を深め、新たにすることができた。

生きているのではなく、生かして頂いているこの命。

「宇宙の意志と調和する我が誠を生きる。」

シンプルにただそれだけなのだと思う。しかしその奥は見えぬほどに深い。そして重い。

「いにしえの道を聞きても唱えても、我が行いにせずばかいなし」

現場の現実の只中で、大切な人たちと共にただ「誠を生きる」。

これからも実践を通じて、人間を深め続けていく。

「教化より感化」

教えて導くのではなく、存在から感じて、自ら動きだして貰えるような徳の薫る人柄を、
本来自然の本物の人間を深め続けていきたい。

■ 斉藤 竜久 様（株式会社三進 代表取締役社長）

素晴らしい日本の偉人の方々の考え方に触れさせていただき、
世界の中でこの日本と言う国で生まれたことに心より感謝の気持ちが湧き上がりました。
有難うございました。

至誠にして動かざる者は、未だこれあらざるなり。
今回良縁をいただき、共に学ばせていただいた諸先輩方の行動のエネルギーの源泉が
至誠にあるのだと確信しました。

不自然を行うから、自然ではなくなってしまうこと。元来美しく皆が誠で生まれてきたのに、
外的な環境や要因、私利や私欲によってその誠が不自然に覆われ、現在はその不自然がさも
自然であるかのような風潮になっていることにさえ気付けずにいました。
調和を求めるのではなく、不調和の状態こそ不自然であり、ただ素直で清らかに自らの生き方
を信念し、自然感覚で生きることが調和していることなのではないかと感じさせていただきました。

今まで歴史上の偉人の方々はあくまで歴史上の偉人の方だと言う認識に留まっていたましたが、
今回難波先生、浩気さんから臨場感と熱量ある講義を行っていただけたことで、私自身がその
時代で生き、もしその当事者として時代に対峙したらと思いを馳せ、判断決断の有り方について
深く考える機会をいただきました。

いただいた「盡己」の二文字を自身の中心におき、己に向き合い、
己の誠を尽くす生き方を求め続け精進していきます。
本当に有難うございました。

■ 原田 智樹 様（株式会社アーストレック 代表取締役）

難波先生から直接、ご講義を聞き、対話を通じて、

歴史を創ってきた偉人の生き様を感じた経験は、まるで時代と空間を超え、

同一時代を共に過ごし、一緒に旅をしてきたような刺激的な体感でした。

書院が持つ学風は、自然の中から湧き出るエネルギーと全く同質のものであり、

内なる良心、良知良能の存在を知らず知らずのうちに認めることができます。

王陽明が「摘骨血」という言葉を残されています。師が己の血を弟子の骨に注ぎ込み、

弟子はその血を一滴もこぼさないように受け取る。

心血を心骨に注ぎ、教えの伝授はなされるという意味ですが、

難波先生の愉快で底抜けに明るいながらも気迫の籠ったご講義はまさに「摘骨血」です。

従業員の物心両面の幸福を追求することと、

世のため人のため人類社会の進歩発展を目指すことを

矛盾なく追求してこられた先人の道を一步一步力強く歩みたいと決意を新たにしました。

森信三先生の言葉ですが

「縁は求めざるには生ぜず。

内に求める心なくんば、たとえその人の面前にありとも、

ついに縁を生ずるに至らずと知るべし」

私たちは、さまざまな機会とご縁を日々、頂いていますが、その時に絶対積極の心境で

「yes」か「はい」で応えよという先達の教えの実践が問われているのだと実感しました。

難波先生、浩気さん、皆さま、ありがとうございました。

■ 石坂 拓司 様（庭のソムリエ 株式会社季節の詩 代表取締役社長）

春に芽生え、夏に盛り、秋に実り、冬に智として貯え懸命に縮み また春を迎える。

同じことの繰り返しに大自然の営みに改めて幸せを感じました。

地球がより美しく元気になるには、を常に心に日々暮らしています。

先生の講義を受け より毎日の朝が黄金色に輝いています。

世界中の人が新しい朝を黄金色の輝きに感謝できるよう大自然と共に生きる

その真意に気づけば より優しい社会に未来になれると確信できました。

天地の子として真っ直ぐにシンプルに この時代を駆け抜け、

天地の地球の免疫力が上がり高まりますようまいます。

難波先生、浩気さん 一年間ありがとうございました。

本年度も よろしく願いいたします。

■ 石坂 暢琢 様（ロシア技能オリンピック日本代表 株式会社季節の詩）

講座を受けて

10人の偉人とその生涯哲学を日本史と共に学ばせていただいたことで、

気づいたことが 5つあります

（1）回を重ねるごとに自分自身の言葉（立志）が具体的にそして解像度が高くなっている。

いかに現在の自分の視野や捉えている世界が狭く小さいか痛感したからだと思います。偉人たちの志や偉業が偉大過ぎて放心状態になる回も何度かありました。講義を受け、仲間の捉え方を共有しあい帰る頃に何かが見える。そんな毎回の勉強会でした。

気づけば私は初回から同じことを言っていました。

それがだんだんと鮮明に具体的に道筋も見えるというか、迷いがなくなったような感覚です。

(2) 物事の判断や自身の感情に困らなくなった。

より大きな世界の展望と肚に決めた立志を持つことで、目の前のことや自身の喜怒哀楽にも一貫した心で接することができていると思います。これも回を重ねることで、日常生活の様々な場面で儒学講座で学んだ内容が似たような状況として現れます。

私が渴望する世界それを必ず実現するのだと、肚の底から湧き上がる気持ちを立志と捉え前に進んでいきます。

(3) 代表が何を言いたいのか 少しずつ解像度が上がってきた。

それはすでに言語化された内容も未だ言葉にできていない大切な哲学も。

受動的だった自分が変わった大きな点だと思います。

今までは、

代表が言いたいこと／会社として言いたいこと／会社が実現したい未来／チームの共通認識／

私が考えていること／私が実現したいこと／などそれぞれが分断分裂して、別物として考えてしまっていました。今は何が起きてもどんな状況でも、やりたいこと立志、それをベースに動じないような。。

社長も私も同じ。会社も私も同じ。真にやりたいこととは何か。進む方向はどこなのか。

それらは誠の心ですべてがつながっているように感じています。

仲間の発言や姿勢からもたくさん学ばせていただきました。

（４）偉人たちに共通すること

皆、自然（俗に言われるしぜんのこと）の摂理を会得していて自由自在に環境を変えられる。

環境に身を合わせる適応能力を持っている。

肩書に土木技師と書かれた熊沢蕃山先生や二宮尊徳先生しかり、肩書になくても10人皆が環境土木や農耕、地域生産事業に、自然環境をベースに改革に挑まれていた。そして彼らの気づきや判断の深い根っこにはこの自然との強いコネクションがあるのだろうと考察します。

現代では都市近郊でほとんど失われてしまったといわれる里山の原風景。それらがいかに人間形成や誠の教育に重要か。痛感しました。

（５）儒学講座の内容は時代が求めていることなのではないかと期待してしまう。

江戸時代から明治大正昭和平成へと足りない「もの」を求めて一心不乱に成長を続けてきた日本や諸外国。ものの面でいうと今ものすごく豊かです。私が本当に感謝しているのは、上下水道の整備、電気ガスのインフラなど。私たちの当たり前にはたくさんの犠牲や知恵によって今立っているというを感じます。

しかしながらこの現実を築き上げるのに不可欠であった誠の心、誰かの幸せのために尽くす心や自然の摂理への理解が遠く置き去りにされてしまっているように講座を通して気づきました。

今、難波先生と浩気さんが伝えられている内容は、経営者だからなど関係なく、老若男女、言語の壁を越えられるのならば、世界中で今この教えを待っているのではないかと期待してしまいます。私たち受講生から波及する誠の心が身近な人や、会社単位でも、取引先にも、消費者にも、地域社会へとつなげていけるように良いイメージで毎日を過ごしています。

■ 土田 俊介 様（株式会社土田組 代表取締役社長）

難波先生、浩気さん、10 回に渡り素晴らしい学びの場をご一緒させていただき、誠に有難うございます。浩気さんの人生編、難波先生の哲学編、熱意溢れる魂の講座で、毎回心揺さぶられました。そして、共に学んだ諸先輩方が醸し出す空気感がミックスされて、心地よい緊張感の中で素晴らしい学びの場でした。只々、感謝しかありません。

この度、感想文をとのことでしたが、中々文筆が進みませんでした。

頭で書こうとして心で書く事ができない。

良い文章を書こうとして、表層的な知識をまとめて頭で書こうとしていた気がします。

日本儒学の勉強会を通じて 10 名の傑物達の人生と哲学を学びました。

皆、一様にして言えるのは各々境遇こそ違えど、最初に強烈な学びがあったという事ではないかと思います。その学びの原動力が、周りの人々を幸せにしたい、日本をより良い国にしていきたいという、純粹で美しい祈りともとれる願望が誰よりも強烈で色褪せる事無く初志貫徹されてきたからこそ、良心と感応し、または、誠に至り、その後の偉業に繋がったのではないのでしょうか。

歴史の授業でしたら、知識レベルで理解すれば良いだけですが、此度の日本儒学講座はそうではありません。同じ気概を持って私達経営者から事業を通じてこの思いを実学実践しなければならない。今回、学びを振り返ってこの学びの重みによりやく気付きました。

シンプルに「人としてなすべきをし、なすべからざるをしないこと」を自分軸にすること。

その先に自分が、今後何を為していくかを引き続き模索していきたいと思います。

■ 仲内 悦治 様（株式会社ナビック 取締役会長）

昨年3月20日のガイダンスから始まり、今年1月20日の渋沢栄一翁まで11回にわたって、我が国を代表する陽明学者の難波征男先生や浩気様にご指導いただき、敬愛するソウルメイトたちと深い学びができたことは、私の人生の上で貴重な財産となりました。

また、やむを得ず欠席した際には、わざわざ会社までお越しいただき補講をいただいたことは、恐縮するとともに、個人的にご教授いただくことによって、一層理解が深くなりました。そして、保科正之や三輪執斎など今まであまりなじみのなかった人物について学べたことも大きな収穫でした。「大学」講座でもお世話になりますが、ご指導のほどよろしく申し上げます。

■ 森川 晴一郎 様（株式会社ナビック 代表取締役社長）

難波征男先生の生涯にわたり繰り返し取り組んで来られた学術的研究、また歴史の舞台となった地で多くの人たちと議論を交わし、まとめてこられた研究内容、それらを通じて世界中の学会や学者、有識者と取り組まれてきた研究内容の集大成をとっても濃い濃度と高い熱量で学ばせていただいた1年間。

私自身、生涯の指針を得た想いで、心から感謝申し上げます。

恥ずかしながら、受講前は「儒学」、「朱子学」、「陽明学」というものの理解として「古典学問」「昔の人の教え」「幕末に勉強していた人たちが明治維新を実現した」くらいの理解しか持っていませんでした。

1年間の学びの中で3つの理解が深まりました。

1つ目は、「世界史と日本史の関係とその時代の日本を代表する人物が目指したもの」です。

織田信長が世界の文化や発展、考え方や技術を知るためにキリスト教徒を受け容れ、言葉も含めた相互理解を進めていくが豊臣秀吉や徳川家康、その後の江戸時代までは弾圧や鎖国と言った取り組みをしている背景には植民地化されている近隣国の情報を知った上での判断であったり、天下を納めた徳川家康が国替えなど強制力を持って行った背景には、戦国の世の「霸道」から安定の平和な時代を創るための「王道」に向かうために朱子学を主軸としたことなど、現象として捉えていた歴史観がその時代のリーダーが置かれた環境や背景、その中で何を指針にしたのか、そしてその結果がどのように紡がれてきたかなど、歴史観そのものが私の中で変化しました。

2つ目は、「原理原則は人類史の中で変化していない」ということです。

易不易、変化することと普遍的なことの中で、今も昔も大切なものは同じであると実感を持ちました。「至誠」「至善」まずは自分の身を納めるところから始まり、志を立てる。二宮尊徳翁や三輪執斎翁の回でも儉約を旨として非常事態に備える。経営における貸借対照表と損益計算書の在り方は普遍的であり非常に単純であるが、自律心が無ければ容易なことではないという戒め的な気づきも得ることができました。

3つ目は、時間を共にした仲間との「議論」の重要性です。

動画学習やインプット型の座学ではなく、その時、その場所で同じ立場のもの同士が同じものや話を見聞きしてどのように感じたのが、何がしたいのかなど、議論が深まることで、志が立っていく。そのような高揚感の中で第一回を共に受講した皆様に感謝の念でいっぱいになっています。

このような学びはどこでも誰でもできるものではないという貴重な体験であり、私の経営者としての人生に確実に影響を及ぼしていただいた機会であったと確信しています。

一年間、本当にありがとうございました。

■ 小池 由則 様（エステル株式会社）

難波征男先生、浩気先生から父親のご縁で父親の経営者仲間、その後継者の方々と一緒に学ばせて頂いたことは私の人生においてとても価値があり、今後の人生に活かしていきたいと強く思っています。

「日本儒学」講座に参加しないかと父親から誘いを受けた当初は非常に固い学びの場をイメージしていましたが、先生方のお人柄が溢れるアットホームな講義、日本儒学、陽明学の考え方、哲学に基づき偉業を成し遂げてきた十人の代表的日本人の生涯を通じての学び、勉強仲間との意見交換を通じて自分なりにですが自分自身の生きる意義・目的や価値観を今まで以上に明確化できたように感じています。

幼い頃、両親に教えてもらった「嘘はつくな」「悪口は言うな」「人には親切にしろ」等の原点も今回の学びにあると感じています。何故なら、今回学ばせて頂いた十人の代表的日本人は現在の日本では考えられないような困難、不遇、逆境においても 思いやりの心をベースに偉業を成し遂げてこられたと理解させて頂いたからです。

今回の学びをより深めていくと共に、まずは家族、職場仲間から学びのエッセンスを広げられるようにしていきたいと思っています。

1年間ありがとうございました。

■ 小池 由久 様（株式会社サエラ 代表取締役）

京セラの創業者 稲盛和夫氏の経営哲学を学ぶ「盛和塾」の本部理事、また「盛和塾大阪」の初代代表世話人でもいらっしゃった故 矢崎勝彦様が絶えずおっしゃったお言葉に「経営者の近視眼が悲劇を招く」があります。

私達、中小企業経営者は全従業員の幸福を実現する為、今年の、今月の、今日の実績を創りあげるといふ経営課題があり、ふと振り返ってみますと、今だけ、ここだけ、自分だけという近視眼に陥っている自分を見ることが出来ます。

今回、ご縁をいただき、陽明学の研究者・大家でいらっしゃいます成生書院 難波征男先生、ご子息の難波浩気先生から、ご講義を受けました。

中江藤樹翁から始まり、渋沢栄一翁までの各偉人の方々の時代背景、成長の歩み、そして生き方、考え方、実践のご講義を、丁寧に、私達に理解しやすく行っていたいただき、私にとりましては、貴重な振り返りの場をいただきました。これを機会に、今後の人生をより価値あるものに創り上げていく所存です。

お礼と感謝の気持ちを申し上げます。

有難うございました。

令和7年2月

小池 由久

（株式会社 サエラ）

